

福居

vol.104



CONTENTS

会長あいさつ/活動報告/30周年記念事業特集/
卒業生へのインタビュー・卒業生からの贈る言葉/
平成17年度会長・委員長の念意/
平成17年度新入会員紹介・おめでた・西木田通信



福井商工会議所青年部 会長
清川卓二



海外研修の際 中国で作ったはんこ (ガイドさん紹介のはんこ屋さんのもの) 100円



(やたい村で作った自称上海一の先生のもの) 40円

*1元=13円

役職が人を育てる

この1年、本当にありがとうございました。こうして会報福居で挨拶ができるのは、会員のみなさん、あじさい会を始めYEGのOBの方々、事務局、岩崎課長、齋藤係長、岩本さん、(※岩本さんを支える松村さん)そして、家族の協力の御陰と感謝しております。

福井YEGの会長になり1年、本当に多くの勉強をすることができ、多くのネットワークを得ることができました。YEGに入ったならば、絶対、会長はすべきです。その気概が必要です。

地域のため、会員のため、社会のため、すべては、結果的に自分のためである事が実感できます。変化の激しい社会、常に優先順位が変わります。YEG会長職、経営者、そして個人、あるいは家族の一員という様々な立場や役職・職務があるなかで、会長という役職は、メンバーの行動力や自発性、創造性に引っ張られて私自身が実行、行動していく点で、決してYEG会長職が1番でないことを実感させられます。優先順位の2番に、「YEG会長職」と「経営者」が同じバランスであること必要とされ、そして、なにより1番には“個人=清川卓二”であることが必要であると実感しました。

2004年度下期の福井YEGの活動をご覧頂き、あらためてYEG、会社、地域、そして家庭での“あなたの”役職と役割を実感してみてください。思い出と共に、“反省”と課題そして“夢”が見つかります。“個人”としての役割を再確認してみてください。“自分が、自分であるために”

来年は、30年後の未来に向けて「Start Up YEG」

高原会長のもと、新人役員とベテラン役員との絶妙なバランスが、まさに“役職が人を育てる”の強い意志を感じます。

さあ、来年度に向け スタートアップYEG!

第10回 ふくい市民会議

《本音集約編》日時 平成16年9月5日(日)
《本音発信編》日時 平成16年10月2日(日)
場所 福井市 協協ビル
足羽川河川敷左岸

「本気で語る・本気で創る」ブライド福井」について

今回で第10回と節目を迎えるふくい市民会議を開催するにあたり、まずは、福井YEGまちづくりの鍵委員会とJCがふくい市民会議実行委員会の過去の経緯を振り返った。そのなかで協働事業に対する認識やふくい市民会議についての理解を深め、福井のまちづくりに対してのベクトルを合せることにより、協働によるスケールメリットを最大に活かしたふくい市民会議開催に向け実行委員会を運営することができた。結果「本音で語る・本気で創るブライド福井」というテーマのもと参加者より地域住民としてのまちづくりに対する考えや思いを抽出すべくテーブルディスカッションを中心とした本音集約編、また本音集約編を受けて、将来の福井のまちづくりについて主体的に市民一人一人が考えていく必要があることを広く提唱するために多くの人が集う秋の収穫祭会場(足羽川原)にてパネルディスカッションを中心とした本音発信編を開催しました。本音発信編においては実行委員会より発表した足羽川宣言(市民会議宣言)とともにふくい市民会議が新聞紙上で大きくとりあげられたことによっても民意を形成するというふくい市民会議の目的が達成できたものと考えます。



加えて2部構成により開催した今回のふくい市民会議は企画段階より福井県政策推進室にアプローチを行っており、行政に対してもその結果が反映されたものと思います。



九月例会

日時 平成16年9月22日(水)
場所 プランカ

「9月例会」は、平成16年9月22日(水)に福井YEGの会員事業所であるプランカにて開催されました。

本例会は、平成17年1月29日に開催された「福井YEG 30周年記念大会」のプレ例会として位置づけられ、「21世紀は女性の時代!若き女性リーダーたち」と語り合う30年後の未来」というテーマで行われました。この例会の趣旨としては、福井で活躍する若手女性をお招きして、福井YEGメンバーとディスカッション・交流することにより、①30周年事業に対する会員の意識の高揚を図る、②30年ビジョン策定に女性の視点を取り入れ、ビジョンの充実を図る、③女性リーダーたちとの親睦、交流を図り、30周年事業で提案する協働の端緒とする、ことを狙いました。

具体的な内容としては、第一部:「福井を知ろう!クイズ」で、福井の置かれている現状についてクイズ形式で楽しみながら再度認識し、それを受けて、第二部:「30年後の福井について語ろう!」で、女性ゲストを交えて「まちづくり」、「コミュニティ」、「ビジネス」の各テーマでテーブルディスカッションを行い、意見交換を行いました。今回は終始リラックスした雰囲気、コーヒーとお菓子を摘みながら行われ、女性リーダーの方々にも積極的にご発言いただきました。また、その後行われた二次会にも女性ゲストの方々に多数参加いただき、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。



(ビジネスの鍵委員会 吉田晋造)

ふくい秋の収穫祭

日時 平成16年10月2日(土)3日(日)
場所 足羽川河川敷左岸、九十九橋下流

足羽川原には一方ならぬ「念意(おもい)」を持ち続けるYEG。桜の延命保存に端を発する活動の成果なのか。YEG同様まちづくりに取り組む(社)福井青年会議所と協働で、秋の収穫祭の核テナントと位置付けられる「福伊キッチン」の運営に取り組みました。

★打ち合わせの段階から、様々な課題がありました。その中でも最も大変だった事はシェフの念意、主催者の念意などそれぞれの主張が真っ向からぶつかり合っただ事。双方「良い物」を作りたいという気持ちがありながら、設備、天候リスク回避を加味した上で、売上目標と経費、妥協点の設定でした。

そんな問題は、直前までずっと議論されていました。しかし時間はどんどん進み、1週間前のラストスパイト時は、天谷学園、福井JCとの調整など課題、準備が膨らみました。この1週間が今となっては非常に楽しい時間でした。もちろん当日も大変ながら、いろいろな意味で楽しむことができました。ただそれ以上に準備の1週間というのはYEG、JC、シェフ、天谷さんなど収穫祭にかかわるすべての人が、目標に向かって一つになっていっている様子を垣間見ました。この収穫祭を当日だけでなく、準備の段階から携わることができて大変良かったと思います。

(まちづくりの鍵 松井良平)

★一昨年の秋の収穫祭の経験から、企画のスタートを早め、6月に一度集まりました。ところが、その場でのシェフは概ね反対。賛同は得られませんでした。更に豪雨水害が追い討ちをかけ、半ば立ち消え状態のまま事実上8月中旬からの企画スタートでした。

今回の福伊キッチンは、より拡大した協働のように感じましたが、企画段階での内情は色々でした。我々

イチチョヨラインPO

サポート事業

イチチョヨラインPOへの青年部の関りについて

私は今年度より、市民実行員会から一般市民へと委ねられた「イチチョヨラインPO」に、青年部からの派遣として「YOSAKOIイチチョヨライ」の運営部会に携る幸運を得た。

以前から「YOSAKOIイチチョヨライ」の運営に携ることは青年部としての誇りである。多くの諸

YEG、JCは共にまちづくりを悩み、模索しながら活動を続ける団体同士。多少のリスクを感じながらも、取り組むべきと考え、実現に向けて努力しました。そして、天谷学園様も、シェフと現場での共同作業は、生徒のスキルアップに繋がると惜しめない協力を頂きました。ですが、オーナーシェフは少し違いました。自らの腕で店を、周辺地区を活性化させようという一匹狼的な考え方があり、本業に影響を及ぼすようなイベントへの参加には疑問があったようです。

これは、シェフとYEG、JCそれぞれの「個」のレベルが高く、崇高な「念意」をもって望んだ事が何よりの要因であると信じています。また、それぞれの団体、個人同士の友情が育まれた事が一番の収穫であり、今後どのようなテーマを持ってまちづくり事業を考えても、最も重要な「人」のネットワーク確立には、念意を伝える事でのみ実現できるのだと感じました。

(まちづくりの鍵委員会 村中洋祐)

先輩方が口を揃えて言われているとおり、運営に携わることには青年部として一種のステータスである。私は、誇りと希望を胸に秘め、華々しく運営部会長の副部長としてのスタートを切った。

しかし、今回は残念ながら福井豪雨によりフェニックス祭りが中止となり、4月〜7月初旬まで企画したことが全て水の泡となってしまった。しかしながら、福井県民の熱い思いと、イチチョライ人の熱い思いが一体となり、「10・23 YOSAKOI イッチョライ」いこさ・やろっさ・つくろっさの実現へと向けて8月下旬からまさに怒涛のごとく、企画が走り出した。我々運営部会も連日連夜の会議を開催し、綿密な連携の下、ほぼ完璧と言える運営方針が決定した。

当日は、「楽しもう！」を合言葉に、一人一人が今までの苦労を忘れ、無心になって、運営に打ち込んだ。：終了後、運営部会員全員の顔が高潮し、満足感で満ち溢れていた。

最後に、最も運営部会の運営にご尽力を頂いた、石川コミュニティの鍵委員長に敬意を表するとともに、「YOSAKOI イッチョライ」の素晴らしいメンバーと知り合えた機会を創って頂いた全ての方々に感謝の意を表したいと思います。「みなさん！本当にありがとう。そして・熱い青春をありがとう!!」

(コミュニティの鍵委員会 松田将裕)

全国大会

日時 平成16年11月5日(金)〜6日(土)
場所 帯広市とかちプラザ

『北海道・帯広大会』に参加して

「1万円で北海道に行ける!? 安い!」

しかしキャンセルすれば全額負担(5万円)高い!! 申し込んだら最後!

をキャッチフレーズに動き始めた、帯広大会。会からの補助もあり30名もの参加があり大盛況、当日参加の方もおられたくらいです。出発当日を迎えて、「行けなかつたらどうしよう!」



北海道・帯広大会に参加して、帯広 YEG の温かい御もてなし、同時に北海道のスケールの大きさ、大自然の厳しさ、先人達の知恵と開拓精神を五感で感じ、北海道・帯広大会を通じ全国各地の青年経済人と交流し語り合うことで、失敗を恐れず新たな世界を切り開いていくことが大変重要だと感じました。今後は、YEG 会員一

一人が広い視野を持ち、学び合いあって福井を開拓・発展できるようがんばりたいと思います。

「蝦夷は なまらえーぞー!!」

(総務委員会 河上剛志)

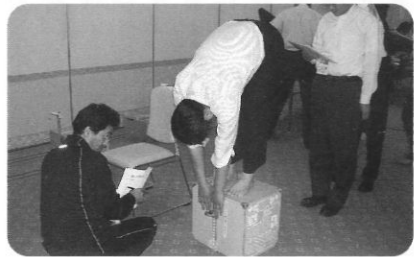
11月例会

日時 平成16年11月24日(水)
場所 プランカ

3単会交流会

11月例会はステップアップ YEG 委員会にとって初の担当事業でした。7月例会が初事業の予定でしたが、福井豪雨とともに計画していた事業は水にながされてしまい、11月にてようやく委員会の本格始動です。

今回の3単会交流会は、企業や家庭の柱である YEG 会員の健康を見直すため、福井県予防医学協会の協力を得て体力年齢を測定し、今後の生活に役立てていただくという企画でした。



腹筋、体脂肪率、片足立ち、骨密度測定など、汗をかきながら真剣に測定。参加している会員はきつと1歳でも若い体力年齢であってほしいと必死だったに違いありません。

鯖江単会、武生単会の方々と混合の班分けの結果今までとは違った会話、新たな交流が生まれたことでしょうか。

全国会長研修会

日時 平成17年2月17日(木)〜19日(土)
場所 岡山市 ママカリアフォーラム他

全国会長研修会 岡山CONFERENCE事務局報告

成功裏に終えた全国会長研修会ふくい会議から早いもので1年が経ち、今回清川会長以下6名(事務局含む)で第22回全国会長研修会岡山CONFERENCEに参加して来ました。

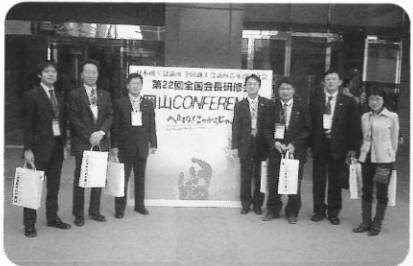
岡山CONFERENCEでは、単会規模(公員数)別に分かれたテーマ別研修会の他、「会議所とYEGの連携」をテーマに事務局研修会も行われ、YEGの大会では黒子に徹する事が多い事務局も今回有意義な研修を受けることが出来ました。

ベネッセコーポレーション代表取締役会長福武総一郎氏による「文化の進歩が企業の進歩」と題した基調講演では、これからの経済人として、文化事業に取り組む必要性、地方に拠点を置いて活動するメリットなどをお話頂きました。

お待ちかねの懇親会では、これまで前代未聞、会員の懇親会とは別に、事務局大懇親会が行われ、YEGメンバーに気兼ねなく情報交換、ネットワークを広げることが出来ました。

YEGの大会は基本的にイベント色の強いものが多いですが、今回の岡山CONFERENCEは、「研修会」に徹している感がありました。

涙と感動の前回ふくい会議で福井YEGのレベルはアップしました。今回の岡山CONFERENCEで事務局研修会及び事務局懇親会によって、事務局のレベルアップも果たすことが出来たと思います。多分。



(事務局 岩本拓馬)



12月例会は、例年通り家族親睦クリスマス会を開催致しました。例年では家族を有名レストランや、パーティー会場へお招きし豪華にクリスマス会を催していましたが、今年は豪華さや、お金では買えない愛情や心をテーマに「手作りクリスマス会」を企画しました。普段から家にいない青年部メンバーが家族におもてなしをする。それは会場準備、会場飾りつけ、ケーキ作り、料理作り：すべてを青年部メンバーで実施するという無謀でもあり、愛情たっぷりの内容でありました。もちろん見た目は悪いです。しかし、料理は先生を招き非常に美味しい料理が出来ました。ケーキも青年部メンバーのケーキ屋さんで下準備をしていただき、参加していただいた家族みんなで飾りつけをしました。アットホームながら、非常に楽しく皆で作った!という会は最高の喜びであったと思います。家族へのクリスマスプレゼントはお子様には、会長サントからおもちやお菓子を、普段からご苦労をお掛けしている奥様には旦那様(メンバー)がサントになり、お手紙のプ

クリスマス会

日時 平成16年12月19日(日)
場所 社南公民館

12月例会

き、宇佐美副会長が堂々体脂肪率1位の座を手中に収めました。景品はダンボールにいっぱい詰めた生野菜。帰宅後、家族にどのように説明したのかは直接ご本人に確認してください。健康があつてこそその企業活動、YEG活動です。自分自身の今を知り今後の生活の改善に努めていきましょう。(ステップアップYEG委員会 高木秀樹)

会員大会

日時 平成17年2月5日(土)
場所 敦賀市若狭湾エネルギー研究センター

敦賀大会

福井県内のYEG会員が一同に集う会員大会。今回は敦賀にて開催されました。打它会長率いる敦賀YEGは今回の会員大会、そして来年は近畿ブロック大会という一大事業を控えていることもあり、YEGらしい活力を感じることで出来ました。



記念式典では敦賀単会の松葉幸子さんの愛娘による歌と踊りで華々しく大会が開会しました。綱領朗読、指針唱和では精一杯大きな声で力みなぎる朗読。決して上手な朗読で無かったかもしれませんが、敦賀YEGの想いを感じることが出来る素晴らしい綱領朗読、指針唱和でした。

懇親会は肌寒さを感じましたが、会員の熱気ですぐに会場は暖かくなり他単会の会員との交流も進んでいきました。

次年度の会員大会は福井単会が担当となっています。菊次年度担当委員長は鋭い視点で随所をチェック。宇佐美副会長は熱く次年度開催のPRを：PRの途中でMCにより強制終了となりましたが：参加したメンバーそれぞれの視点で会員大会を見つめ、来年の会員大会福井大会成功への糧としていきましょう。(ステップアップYEG委員会 高木秀樹)

海外研修

日時 平成17年3月3日(木)～6日(日)
場所 上海

急成長する街、奮闘する日本のビジネスメンたちへ海外研修記

青年部の海外研修が3月3日～6日にかけて行われた。4年ぶりとなる今回の海外研修は、急成長を遂げる中国。その中国の中でも最先端の街、上海を訪問した。研修の目的は「急成長を遂げる上海の現状を体験する」「中国市場を日夜開拓している日本企業を訪問し、中国ビジネスの実際を知る」ことの2点。青年部8名、あじさい会3名、事務局1名の総勢13名の参加があった。

●行程

〔3日〕13時30分小松空港発→15時30分上海浦東空港着→リニアモーターカーで上海市街へ→浦東地区視察→県上海事務所藤井氏講演・会食
〔4日〕〔午前〕サントリービル工場訪問→〔午後〕襄陽市場→シャルマン上海事務所訪問→カルフール視察→シャルマン沼氏との会食
〔5日〕商業開発地区新天地見学→豫園見学→南京路見学→夕食後上海雑技団
〔6日〕9時30分上海浦東空港発→13時小松空港着

小松空港から飛び立った飛行機は、約1時間遅れで上海浦東空港に到着。リニアモーターカーで市街に入り、バスで巨大なビル群が林立する浦東地区に移動した。この浦東地区は、上海市街を流れる黄浦江の東側の地区で、今最も開発・発展が進んでいる地区だ。一番有名で目立つのが何と云っても東方明珠テレビ塔である。世界でも3番目に高い塔とされている。テレビ塔を中心とする浦東地区のネオンが美しく、夜景はまるで



近未来の世界のようだ。1日目の夕食には対岸の旧市街の夜景が見えるレストランで県上海事務所藤井氏を招いた。藤井氏からは、上海の現状や県内企業の実況、赴任中の3年間タクシーで8回事故に遭ったといった体験談を聞きながら有意義な時間を過ごした。
2日目は、まず上海郊外にあるサントリーの工場を訪問した。同社は現地に合った商品開発と中級ビールを狙うマーケティング戦略、小さな小売店を地道開拓する営業努力によって、進出8年で上海のビール市場の50%以上を占めるまでになったそうである。日本とは一味違うビールを飲みながら、中国市場攻略の戦略をお聞きした。午後は、シャルマンの上海事務所におじゃまし、所長の沼氏から同社の販路開拓の戦略・取組みをヒアリングした。同社は富裕層をターゲットに、ブランドを活かした高級品路線で展開しているという。この日訪問した2社とも、中国市場に切込んで新たな販路開拓に奮闘する日本のビジネスマンの姿があった。彼らは日本のマインド持ちながらも現地に溶け込み活動している。そんな彼らが私には非常に輝いて見えた。
3日目は、主に市内見学に充てられた。旧市街地を先端的商業集積地に再開発した「新天地」。上海一の観光名所の「豫園」とその周辺の市場。そして上海の銀座とも言える「南京路」。夕食後は上海雑技団の技に全員が拍手喝采だった。こうして市内を見学すると人々の生活が見えてくる。高級品はデパートで、食料品はスーパーで、電気製品などは専門の量販店で、日常の品物はコンビニで、というように上海でも日本に近い消費生活が確立しつつあるようだ。
3泊4日の短い行程であったが、今の中国の活気、勢いを十分体感できた。「成熟していないからこそ、そこにビジネスチャンスがある。やるなら今のうち。とりあえずやってみよう。」そんなスピード感のあるビジネスが日夜展開されているのだろう。
なお今回は、昨春秋就航した小松上海便を利用した。これまで閑空または名古屋まで行かなければならなかったことを思うと、アクセスが非常に便利で、参加者にも好評であった。改めて小松上海便の開設が福井に大きなメリットをもたらしていることを肌で感じた次第である。
(事務局 齊藤芳典)

30周年記念大会を終えて

「葦原の瑞穂の国は神ながら言挙げせぬ国然れども言挙げぞ我がする一」

30周年記念事業実行委員長 高原 裕一



30周年記念大会で残ったもの…それは、30年事業に取り組んだというYEGメンバーの体験から生まれた新たな信頼のネットワーク、そして30年後のビジョンに基づく活動を今まさにスタートしようとする事実です。

30年後のビジョンを打ち立てるといふチャレンジを与えてくれた清川会長に感謝致します。何故ならそれがあったからこそ、各界からの注目と、様々な感想や意見を頂くことができたからです。30年ビジョンを発表するということは、遠大で、傲慢であると思われるかとも感じられますが、あえてビジョンを打ち立てる、つまり言挙げすることは、自分自身のアイデンティティを見つめなおし、未来への「意志」を明確にすることもありません。

慎重深いのが日本人であるが、敢えて言挙げする。だからこそ、革新的な動きが生まれる。そういう風に考えられましょう。宣言し、実行する。これまさに経営戦略を打ち立てて実行する私たち商売人のありようそのままではないでしょうか。

30年後のビジョンを胸に、17年度は新たな委員会において、それぞれのビジョン、構想実現に向けた具体的な活動への新たな一歩を踏み込もうとしています。新しい年と新しい我々自身に大いに期待していきたいと思っております。

『葦原の瑞穂の国は神ながら言挙げせぬ国』然れども言挙げぞ我がする言幸く(ことさきく)ま幸く(まさきく)ませと／つつみなく幸く(さきく)いまさば荒磯波(ありそなみ)ありても見むと／百重波(ももえなみ)千重波(ちへなみ)にしき言挙げす我は 挙げす我は』 (万葉集)

〔訳〕「葦原の瑞穂の国(日本)昔から神様の意のままにある、言挙げしない国です。それでも言挙げをわたしは敢えてします。どうぞお元気にご無事でいらっしやいと。つつがなくお元気であられたら(荒磯波)のように困難があっても、そのうちに逢えましよう。百重波 千重波のように何回も何回も繰り返して言挙げをしますわたしは 言挙げをしますともわたしは」

〔返歌〕『磯城島の(しきしまの) 大和の国は 言霊の助くる国ぞま幸くありこそ』
〔訳〕「(磯城島の) 大和の国は 言霊の助け給う国です どうぞ安心してご無事でいらしてください」

私たちの未来が幸(さき)くま幸くあれと。
30年後の未来が手招きをしてくれています。どうぞご安全に。

30周年記念大会

総務委員会

平成16年9月… 30周年記念事業に向けた活動が始まった。

総務・ステップアップ・ビジネスの鍵・コミュニティの鍵・まちづくりの鍵委員会が長期計画のスタートラインに並び、高原実行委員長の掛け声と共に一斉にスタートした。我々総務委員会は、30周年記念事業の予算管理と当日の受付対応という役を受け持った。最初の委員会では、みなさん予算の事よりも自分の委員会の事で精一杯という感じでした。会を重ねるごとに、みなさん余裕が出てきて6回目ぐら



いの実行委員会が25周年の予算案をたたき台にした各委員会の予算案が集まりました。それからは、各委員会の事業活動に集中されて、実質的な予算案は年明けの1月になってから集まり出して、最終は本番ギリギリの1月20日に確定しました。しかし、みなさんの努力のおかげで収支は黒字になり、総務委員会の役は十分に果たせたと思います。

本番当日、総務委員会は少々早めに集まり受付の準備にかかりました。しかし、他の委員会の方々にもお手伝いいただき予定時間より先に準備が整いました。(さすが青年部！各自の役割以外でも、手の空いている方は積極的に動いてくれました。)受付時間になり次々に参加者が集まり始めました、OBのN氏や商青連の役員の方々…。来賓者のアテンド(お茶出しですが…)をお願いしたRさんご苦労さまでした。来賓の方々の話し相手になっていたのか…。何より、青年部の皆さんお疲れ様でした。この経験を踏まえて、35周年に向けてがんばろう！



(総務委員会 板谷賢一郎)

ビジネスの鍵委員会

当ビジネスの鍵委員会は、30周年記念事業では、第一部と30周年ビジョンのビジネスの部分を担当しました。

第一部の企画運営は、この記念事業の核となる部分です。どういう内容が今回のテーマである「協働」に相応しいかを皆で考えた結果、協働者をお願いする皆様のYEGに対する「声」をできるだけ多く集めようということになりました。

市民の皆さんが30年後の福井に望むことをアンケート形式で収集し、地域リーダーの皆様がYEGに期待することを「ビデオメッセージ」という形で集めさせていただきました。

そして最後に、パネルディスカッションを行いました。これは副題として「パトルーク」と名付けたとおり、本音での論争が繰り広げられ、我々の課題が浮き彫りになったかと思えます。

30周年記念事業のもう一つの柱であるビジョン策定ですが、これも大変苦労しました。結果的に3回の大きな方針変更を経て、作り上げるものが出来ました。

最初のビジョンは、30周年後に福井がビジネスの面で活路を見出すにはどうすれば良いかという視点で、「アジア」をキーワードにビジョンをまとめました。

その後、他のビジョンとの整合性が問題となり、「まちづくり」のビジョンの上位概念として「ビジネス」のビジョンを作成するとの変遷を経て、今回のビジョンが漸く決まりました。

結果的にビジョンの骨子が決まったのが、記念事業の2週間ほど前で、そこからは突貫工事でした。記念事業の前日にやっとプレゼン用のパワーポイントを完成することができました。

そしてビジョンの発表当日を迎えたわけですが、発表が終わった後、まちづくりの鍵の水元委員長と同じビジョン作りで苦しんだ同志として感激の握手を交わしたことが、今となっては良い思い出となっております。

(ビジネスの鍵委員会 吉田晋造)

「コミュニティの鍵委員会」

コミュニティの鍵委員会では、30周年記念大会に向けて、主に「コミュニティの鍵ビジョンづくり」...



まず、コミュニティの鍵ビジョンの作成。ビジョン作成に要した時間は、100時間超。とても楽しかった...

「まちづくり」の鍵委員会

我々は、今回まちづくりVISIONを作成するにあたり、16年度事業にて2回に渡り開催した「第10回ふくい市民会議」...

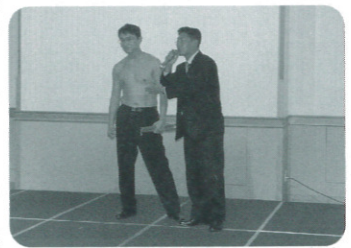


(まちづくりの鍵委員会 水元一徳)

「自己満足？」 今後はこの苦労して作った「市民リーグ構想」を具現化し、今後のまちづくり事業やYEG活動に対する趣旨・目的の明確化・実現性・効果性・スピードを高めること...

「ステップアップ」の委員会

30周年記念事業で当委員会が担当させていただきましたビジョンの総括ですが、会員総会の際には一体どうしたいの？ どうやってまとめたらいいの？ と不安を感じていました...



(ステップアップYEG委員会 高木秀樹)

結果、評論家の先生には厳しいお言葉を頂きましたが、福井YEGの念意だけは伝わったのではないのでしょうか...

お忙しいなかお越しいただきまして有難うございます。卒業生は林さん御一人なのでページ全部使わせて頂きます。

ところで、毎日林さんのメーリングリストは凄いですね。この調子ですと一冊の本ができるのではないのでしょうか？

林さん 実は神田マサノリさんのトライアルで経営コンサルタント・エモーショナル営業のホームページをクリックすると、朝の4・5時にメールが送られてきます。それを真似て私もやっています。

月に3・4冊の経営関係の本と漫画が4・5冊、日経ビジネス雑誌などをお風呂のなかなどで読んで一日の締めくくりはメールの書き込みで終わります。

朝は何から始まりますか？

林さん 朝は起きてから朝食の味噌汁を温めている間に腿上げをやるように習慣づけています。これもリズムを持ちパターン化しないと続かないでしょう。それを車を運転するときには「ついてる・ついてる...」を連呼して自分に言い聞かせるようにしています。これもいかに続けるかが力になると感じています。

では会社での習慣は？

林さん 毎日必ず続けることはあまりないですが、社員に仕事の優先順位をリミットカードとして名刺大にいつまでに、いかに処理するかを朝に書かせています。社員へは一時間の仕事を1回するより5分の仕事を30回するほうを優先的にするように言っています。



林さん 最初の夢は社員を入れることでした。家内と二人で始めましたが最初、同業者周りをしていたところある業者の方から色んな人と知り合いになるには武生青年会議所に入会したほうが良いと薦められました。入ってみてJCの仕事の大変さに気付く、とりあえず一年続ける方法を考えました。その青年会議所の例会で成功哲学例会があり、会社の夢、目標を思い続けたり書いてみたりしてやる気をだすことを聞きました。

そこで私も社員を入れる夢をもちまして実現できました。

YEGに入ってみて良かったことは？

林さん いろんな出会いがあったことです。まずスキークラブで金木さんに出会ったことがYEGに入会したきっかけですが今では会長も経験させていただきました。私が入った年にYOSAKOIイッチョライが始まり、2月からたった5ヶ月間で実現してしまう凄いな体に入ったものだと思えました。それと組織的に自由さを感じYEGは情熱・意識ある者が要職になれると感じました。

商青連に向いて良かったことはありますか？

林さん 商青連へは山岸さんから紹介されて入りましたが基本的に福井YEGと土壌は一緒です。商青連では全国規模のため全国に友人ができ、そこから色々な情報が入り自分の身になっています。その情報も潜在意識のなかにとどまっているので非常に私の力になっています。



洋

林

「福井YEGは凄いですね」とよく言われます。事業規模が大きいことでしょうか？

僕もメンバーの意識の高さだと思います。きつと目的と時間を共有する事で互いに鍛えられていると思います。それはYEGには自由に意見を言える環境があるからだと思います。親会のお陰でもありますが、YEGは会員の可能性を最大限引き出せる団体だと思います。

でも外部からは組織力のある団体に見られていないように思います。例えばJCは組織力と自己研鑽に優れていると思います。福井YEGも、団体としての力が積極的に事業に参加することで、多くの会員が積極的に事業に参加すると思っています。私は、友田さんや水元さんと同年入会して6年3ヶ月間籍を置かせて頂きました。短い期間ですが多くの会員から沢山のものを頂きました。その結果、企業としてもYEGに入会して昨々までの六年間で、



売上は1.1億円→2.4億円、従業員7人→14人と規模的には倍になりました。事業拡大に必要な情報の多くはYEGから得たものです。人と人との出会いからしかチャンスは生まれません。どんな人にも素晴らしい素質と可能性ががあります。私は多くの会員から学びました。会員として積極参加、「ミニケース」も大切、参加してない会員も声をかける優しさ、これが大切ではないでしょうか。

私が会長のときのスローガンは「ネットワークYEG」

これからも、あじさい会やOBとの交流を忘れないてください。ありがとうございました。

会長をして良かったことは？

林さん 全国会長研修会で全国のYEG会長の方に顔を覚えてもらったことです。一般会員だとなかなか対外的に友人は作りにくいですが会長だと立場的に様々なネットワークで友人が作りやすかったです。

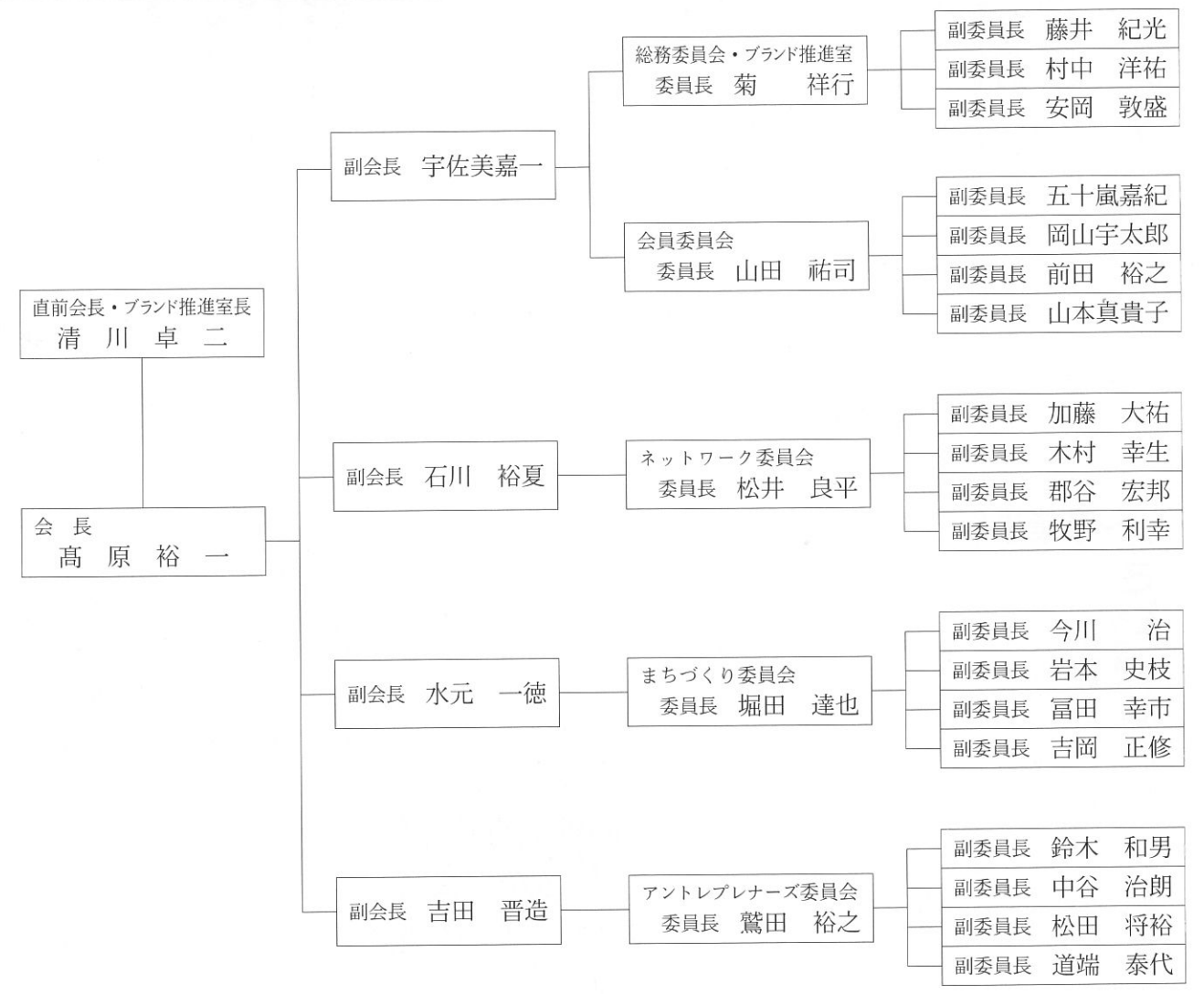


対内的には4月の総会で終わりなので自分の思いを出せない歯がゆさがありました。今までの5委員会から7委員会に変更して(本日は8委員会にしたかったのですが)全会研に向けてよりフレキシブルに動ける体制にして組織活性化しました。組織は人事で決まる。誰にどのセクションを与えるかキャストに気を配らなければいけません。

林さんには他から自分の身になることを取り入れようとする意識が強くなりましたが？

林さん 私はとりあえず全部やってみよう精神でいます。思っていることは実現する。ついてる・ついてる」と言い続けると顔がついてくるようになります。思い続けるとチャンスや出会いが出てきますし気がつきます。

平成17年度役員組織図



17年度への念意(おもい)



平成17年度会長 高 原 裕 一

1、30年後の未来に向けてスタートアップ！
福井YEG 30周年記念事業において発表された「30年後のビジョン」とそれに基づく基本構想。これからの30年後のふくいを創造するために私たち福井YEGメンバーは今後一層「ビジネス・起業促進」、「市民参加型まちづくり活動の促進」、「テーマ型コミュニティ創出促進」をスピードと信念を持って進めていきたいと思います。

2、テーマは協働
そのためには、私たちは福井YEG内部の活動にとどまらず、他の地域リーダーたちとともに、相互理解と信頼に基づき、共に活動する「協働」を模索・促進していかねばなりません。「福井を良くする」「自らを高める」ために、どんどん他の組織や地域のリーダー達とのオープンマインドな交流を深めていただけることを期待します。

3、基本は委員会への貢献
福井YEG最小コミュニティである「委員会」。委員会の活性化は福井YEG全体の活性化、ひいてはふくいの活性化、つまるところ、自分自身の活性化に直結します。

結します。

活発な委員会活動を通じて、自己研鑽、ネットワーク作りを促進していただけることを望みます。委員会活動の中こそ、真のYEG活動のエッセンスが存在しているからです。委員会への貢献、これを念頭に活動していただければと考えます。

4、新たなチャレンジ
これまでの事業を見直し「YEGのメンバーにとって」「ふくいの活性化にとって」必要不可欠な活動であるかどうか、緊急性・重要性は高いかといった視点で事業を再構築し、活動を活性化していただくことを期待します。規模の大小に関わらず、数多く新しいチャレンジングをして組織の可能性を広げていただきたいと思います。

5、福井YEGらしさ
福井YEGらしさとは何でしょうか？それは経済人・商人の集まりであることを全面に打ち出すことができること、自由闊達な意見交換ができる風土による、新たな創造力の発揚ではないかと考えます。新入会員でも先輩でも、正しいと思うことは積極的に発言する。そういう中小企業のダイナミズムが凝縮された組織がYEGの組織特性であると考えます。その自由闊達さの中に新たな創造の種子が芽吹くのではないのでしょうか。

6、スピードと念意(おもい)
念意のこもった事業運営を期待します。小さな事柄の中にもどれだけの念意が込められているかによって、その事業が生き活きとしてきます。そして、気付いたら即変化するスピード感も大切です。スピードと念意を込めることを基本的な活動ポリシーとしていただければと念意します。

総務委員会



委員長 菊 祥行

17年度総務委員会はブランド推進室を担当し、各事業・活動内容がビジョンに沿っているか、ブランドを高めるための事業になっていないかを助言していきます。特に私以外に初めて委員長を受けられますので、今までの経験を生かし少しでもバックアップできるような務めていきたいと思えます。また委員会活動を活性化するとともにYEGの原点であるビジネスネットワークについて研究していきたいと考えています。全国会長研修会、30周年事業と立て続けに大きな事業を無事成功させホッと一息ついていませんか？今年度は県連会員大会の主管という大きな仕事があります。是非皆さんの力をお貸しください！

会員委員会



委員長 山田 祐司

会員委員会委員長を務めることになりました山田祐司です。委員会として色々とするべき事が多く、悩む日々があるかもしれませんが、委員会メンバーと共に楽しく乗り越えていきたいです。まずは、4月から始まる時代行列。各委員会の中で一番最初の行事だけに、気合が入ります。その気合が空回りしないように精一杯頑張り、委員会のいいスタートアップになるようがんばっていきます。よろしくお願ひします。

まちづくり委員会



委員長 堀田 達也

「人存在のところにまちが出来、まち在るところに人が集い、人が集えばまちは栄える。」私は子供の頃こうやって未来永劫まちは発展を続けるものと思っていました。

アントレプレナーズ委員会



委員長 鷲田 裕之

将来ふくいはどんなまちに発展していくのだろうかとかわくわくしていました。しかし、現実には発展どころかまちは空洞化し衰退していく一方です。私たちYEGは地域に根ざした青年経済人としてこのまちの状態を傍観しているのではなく、自ら率先してドラマチックに改善していく責任があると私は考えます。17年度まちづくり委員会ではこのまちと真剣に向き合い、我々に出来る最大限の活動を試みたいと考えています。

ネットワーク委員会



委員長 松井 良平

この度ネットワーク委員長になりました松井です。青年部に入会して早2年というべきか、もう2年というべきか：今回委員長を受けた際にいろいろな方から「この年齢(25歳)で委員長を受けて、後20年(定年まで)どうするつもりなの？」と少々プレッシャーをかけられ、委員長という重責を果たせるの心配ではありますが、若い事を活かした委員会運営をしていきたいと思えます。タレント豊富？個性豊か？な委員会メンバーばかりですが、楽しく活動していきたいと思えます。

結婚・出産 おめでとうございます



うさみとしき
宇佐美利樹
でちゅ

パパは宇佐美嘉一君でちゅ

平成17年1月23日
AM4:17

数字の昇順で4:05か4:56を密かに望んでいたがそんなにうまく行きませんでした。

性別 男の子
(3番目の子で次男)

出生時体重 3676g

生れた時の第一印象は、デカイ！
(誰に似たのか…私!?)
某団体のお蔭様でこの子が生れてから、ほとんど一緒に居る時間があつて〜ん。



平成16年11月22日
畑下 徳洋君
奈美さん
(旧姓 水上)

平成17年1月28日
景山 直恵さん
(旧姓 山本)
恒司君

結婚

新入会員紹介



伊藤 洋一

勤務先 ● パースティック株式会社

●一言 ● 性格は表面上温厚。好奇心旺盛。猪突猛進。単細胞。涙もろい感動屋。でも皮肉屋。店ではたまに瞬間湯沸し器。
仕事多忙のため、なかなか出席できませんが宜しくお願い致します。



塩谷 雄一

勤務先 ● シオタニグループ

●一言 ● みなさん、はじめまして塩谷雄一です。これから青年部の活動を通して福井の振興のためがんばっていきましょう。どうぞよろしくお願いたします。



玉田 幸夫

勤務先 ● 榎石本石材

●一言 ● はじめまして 私は玉田幸夫と申します。家族は妻、5歳の長男と母親の4人家族です。現在仕事は石本石材で営業の仕事を頑張っています。将来はインターネット関連の仕事で独立したいと考えております。



中村 雅恵

勤務先 ● 榎トウ・アー・ティー

●一言 ● 私、中村雅恵は平成16年度9月に、商工会議所女性会から、青年部へと入会させていただきました。若くて行動力のある青年部で、少しでもお役に立てられる様、努力してまいりたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。



坂本 まゆみ

勤務先 ● 榎マリージョゼ

●一言 ● 夫婦共に美容師で私はマリージョゼの役員をし、旦那は美容学校の教員です。土日の活動は仕事上難しいですが、会員の皆様と交流が持てることを楽しみにしています。



松島 英之

勤務先 ● 松島塗料株式会社

●一言 ● 文京にて各種塗料および塗装用品の卸販売を行っております。入会を機に各業種の方との交流を深め、福井の活性化に努めていきたいと思っておりますのでヨロシクお願いたします。

西木田通信

本編にも寄稿しましたが、今年度全国会長研修会が岡山で開催されました。そこでは事務局研修会と事務局大懇親会が行われ、全国の事務局と意見交換することが出来ました。そこで聞かれた様々な意見(クチ?)は非常に参考になりました。幸いとして我が福井YEGは、事務局の負担は全国で聞いたそれほどひどくはありません。それはもちろん会員ひとりひとりのポテンシャルが高いことでもあります。その影で私の一つの作戦が成功していることはあまり知られてないでしょう。その作戦とは…

「能ある鷹は爪隠す。作戦」。

多くの会員の方には私、事務局1の仕事ぶりは頼りなく見えるかもしれませんが、

「この書類の作成、事務局1にやらせたいけどちょっと頼りないな。仕方ない。委員会できるか。」

「研修先の段取り事務局まかせにしたいけど、ちょっと不安。自分でも調べるか。」

そんな声が聞こえてきそうです。

しかしこれは仮の姿。頼りない事務局を演じて、YEGの自立を促しているのです。全国大会で、事務局なのに3,000人の前で熱唱するのも、記念写真の度に、事務局なのに真ん中で写ろうとするのもすべてYEGのため。内面からじみ出る才能の輝きをひたすら隠し、「屋あんどん」に徹するつもりです。すべてYEG愛なのです。

しかし私もYEGに携わって早や2年、機は熟しました。もうそろそろスパー事務局としてそのペールを脱ごうと思えます。もう先輩事務局S氏にも迷惑かけません。

ちなみにこの作戦、YEG以外でも普段から使っています。私の姿を見て上司も頼りなく思っているかも知れません。しかしこれは仮の姿、爪を隠しているだけなんです。本当です、課長…。

※本文は現時点ではフィクションです。多分に願望が含まれておりますが、将来はきっと…。会員だけでなく事務局も大きく育ててくれる、それがYEGの良きの一環です。

匿名希望(事務局27歳)